

第92回 (R7. 8)

君は投票に行ったかい？

古い話で恐縮だが、男は大阪近郊の街で教職に就いている友人を訪ねた。折しも友人の住む街は、市長選の真只中。再会を祝しながら選挙に話が及ぶと、彼は投票には行かないと呟いたのだ。

「何で教師のお前が投票に行かないんだよ。」男は友人を問い詰めた。「だってさ、今回の市長選は無風だし、ここの投票率はいつだって30%程度なんだよ。」友人はそう抗弁した。

「我々が選挙権を得たのは、遠い昔のことじゃない。そのために、多くの血が流されたことを、お前だって知ってるはずだ。選挙にも行かないで、お前は子供たちに何を教えるんだ。」男の言葉に友人はうなだれた。

今年は、一般の男性が選挙権を得てから、ちょうど百年。さらに女性の参政権が法的に確立されて80年になる。そんな節目の年にあたる今回の参議院選挙の投票率は、全国

の85.5%島根の96.6%と前回を大きく上回った。特筆すべきは東京、神奈川、愛知、兵庫などの大都市で60%を超えたことだ。

小泉内閣時代に始まった劇場型選挙は、SNSの普及によっていよいよフェステバルの様相を帯びてきた。短くて刺激的なスローガンが飛び交い、政治から見放されたと感じ、虚無感の海に漂っていた市民たちを、投票行動に駆り立てた。全ての国民が選挙権を得るまでの苦難の歴史を想えば、多くの有権者が投票行動に参加することは、喜ぶべきことである。しかし、それはポピュリズムが蔓延する危険性をも内包している。

かつて島根は投票率が8割を超え、全国一の座が長く続いたが、今その面影は全くない。ところで皆さんは投票に行きましたか？